

1 まとめ・振り返りの時間を確実に確保する。

- ① 毎時間、5～10分間を確保するように心がける。
- ② 「何を学習したか」を明確にする。
 - ア 振り返る視点(キーワード)を子どもに示す。
 - イ 自分の言葉でまとめる時間を確保する。
 - ウ 学習した内容を生かす活動場面を設定する。

2 「ねらい」と「まとめ」の整合性を図る。

- ① 「ねらい」を明確にする。
 - ア 子どもの学習履歴やつまずきの原因を把握する。
 - イ 単元全体や本時で身に付けさせたい力を明確にする。
 - ウ 本時の「ねらい」が達成された具体的な子どもの姿をイメージする。
 - エ 子どもの問いや思いを引き出し、明確に意識できる「めあて」を提示する。
- ② 「ねらい」と「まとめ」の整合性を図る。
 - ア 本時で身に付けさせたいことをまとめる。
 - イ 「ねらい」に合った適用問題等に取り組む。
 - ウ 「ねらい」と「まとめ」の観点別評価を合わせる。

3 授業と家庭学習を連動させる。

- ① 授業で学習した内容の定着や活用を図るための家庭学習について指導する。
- ② 授業で「分からなかったこと」や「新しい問い」を家庭学習で調べさせる。
- ③ 家庭学習の内容を授業の導入段階で取り上げる。

4 教師と児童生徒の望ましい人間関係を構築する。

- ① 明るく表情豊かで、一人一人の子どもたちを大切に、情熱をもって指導する。
- ② 子どもたちのよいところを積極的にほめる。
- ③ 1日1回、全員の子どもの声をかける。
- ④ 子どもの小さな頑張りを保護者に伝える。

5 安心感のある学校・学級づくりを推進する。

- ① 特別活動
 - ア 一人一人に役割をもたせ、認め、称賛する。
(居場所づくり)
 - イ 係活動や委員会活動等で、自主的・実践的な活動を大切にする。
 - ウ 子ども同士でよいところを認め合う機会をつくる。
(絆づくり)
- ② 道徳教育
 - ア 読み取りから脱却し、自分のこととして考える場を設定する。
 - イ 他者の意見を基に、様々な視点から考える場を設定する。
- ③ いじめ防止
 - ア 早期発見、早期解決に努める。
 - イ 教職員が連携し合って、様々な立場から子どもを見守る。
 - ウ 認知ゼロから見逃しゼロへ

※ 現在、不登校となっている子どもたちへは、引き続き社会での自立に向けた心温まる指導をお願いします。